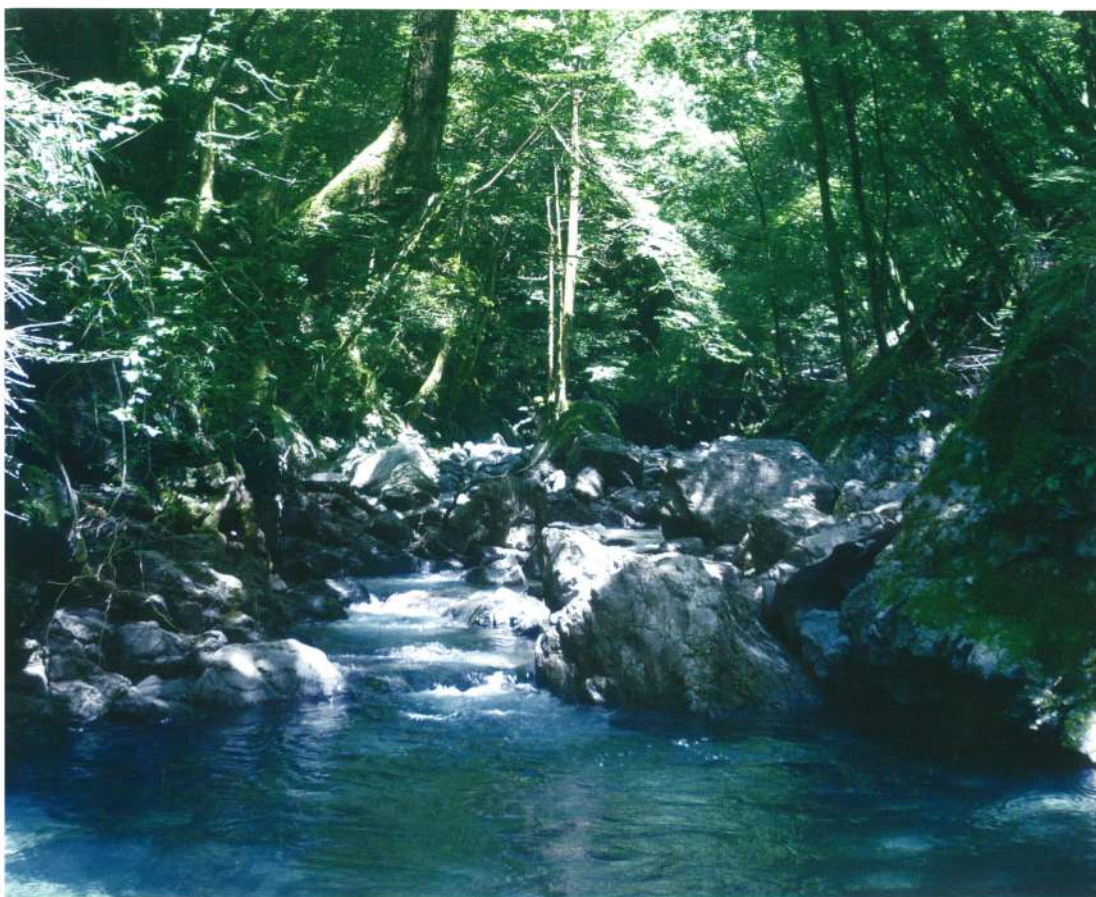


吉野川源流

# 「水源地の森」

環境保全のためのガイドブック



奈良県 川上村

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

## 先人たちの意思を引き継ぎ、 守り育てる、かけがいのない自然

川上村の奥地にある、吉野川(紀の川)源流の三之公地区には、500年以上も昔から手つかずの森が残されています。森は恵の雨をたくわえ、川をつくり、あらゆる生命を育み支えてくれています。

先人たちが遺してきた自然と意思をしっかりと受け継ぎ、未来へ手渡したい。そんな思いから、川上村はこの森の約740haを買い取り、吉野川源流「水源地の森」として守っています。

### [水源地の村の思い]

1994年策定の川上村第3次総合計画において、川上村は吉野川源流の村として、その責任を積極的に果たしていくことを決意。1996年には「下流にはいつもきれいな水を流します」という思いのもと「川上宣言」を全国に発信。平成11年度より、これらの具現化策として、吉野川最源流部の手つかずの天然林の保全に着手。山林所有者の協力もあり、村が購入・村有林化し、管理・保全していくこととなりました。

当時、環境問題に対する意識は、社会全体としてもまだまだ低いなかで、この取り組みは、例えば水道受益者や漁師といった下流主導によるものではなく、源流の村が自ら率先して、下流のために森の保全に取り組んだ極めて稀な事例として、新聞紙面に取り上げられるなど、世の中の注目を集めました。これは村民の理解があってこそ実現できたことです。

なお、「水源地の森」周辺には、和歌山市と川上村の協定(2003年8月)による「和歌山市民の森づくり」が行われるなど、上下流交流のシンボルとしても大きな役割を果たしています。

### [水源地の森の概要]

- 購入年度:1999~2002年
- 面積:743.4ha
- 購入費用:約10億円

財源 / 地域総合整備事業債  
辺地対策業債  
一般財源



## 水源地の森ツアー ~源流の森の自然に触れる~



### 「水源地の森」を探検

吉野川(紀の川)の源流を育む「水源地の森」は、500年以上前から手つかずの天然林。貴重な生態系が残る森です。一般の方の入山をお断りしていますが、森と水の源流館が主催するガイドツアーを通じて、森の入り口にお邪魔し、その魅力に触れることができます。

### 水源地の森ツアー (有料)

普段は入ることのできない「水源地の森」を訪ねて  
四季折々に姿を変える生きた森を体験し、動物や植物の生態を観察します。



なお、実施の目的、時期、人数に制限があります。  
また遊歩道として整備されたコースではありません。

詳しくは、森と水の源流館ホームページをご覧ください。➔



※「吉野川源流—水源地の森」は、一般の方の入山はお断りしています。  
※参加費の一部は「環境協力金」として森守募金にあてられます。

# 川上村 河川 MAP



## 川上村有林「吉野川源流－水源地の森」 保全の取り組みへのご協力をお願いします

水源地の森は、原生林としての植生や生態系の希少性だけでなく、吉野川(紀の川)の上流・中流・下流の人たちの思いによって守られている森です。条例により、許可のない立ち入りなどの禁止行為が定められています。どうぞ、皆さまのご理解ならびにご協力をお願いします。

この森と、森をつくる生き物たちを守ることを目的に、  
村条例では区域での**動植物の採取を禁止**しています。

## 三之公川上流

### 「吉野川源流－水源地の森」(川上村有林)



**トガサワラ**  
日本特産の固有種  
マツ科の常緑針葉の高木  
(P5参照)



# 森の植物

「吉野川源流－水源地の森」は、標高約470mから最高点1099mまでの標高差の中に、ブナ、トチノキなど北日本に多い植物や、ヒメシャラ、ヤハズアジサイなどのソハヤキ要素、樹木に垂れさがるキョスミトゴケなど亜熱帯性の植物までが混在する紀伊半島中南部特有の原生的な自然環境が残されています。

**トガサワラ**  
*Pseudotsuga japonica*

紀伊半島中南部と高知県にのみ分布する日本固有のマツ科の針葉樹で、樹高30mほどになります。第三紀から第四紀前半の比較的温暖な時代に繁栄した温帯系針葉樹の生き残りで、いわゆる「生きた化石」です。環境省のレッドリストでは、絶滅危惧II類に指定されています。「三ノ公川トガサワラ原始林」は1904年に国の天然記念物に指定されました。



**コガネネコノメ**  
*Chrysosplenium pilosum var. sphaerospermum*

溪流沿いに生育する高さ約5-10cmの小さな草本です。溪流の森では、春を告げるように、花が咲きはじめ、新緑の頃には花期が終わりです。まだ森の中が明るい早春には足もとに小さく目立たない花々がたくさん咲きます。このように早春に一瞬の輝きを見せる植物たちをスプリング・エフェメラルズ(春の妖精)と呼びます。



**イワタバコ**  
*Conandron ramondioides*

溪流の岩壁に着生し、夏に直径1-1.5cm程の美しい紫色の花を咲かせます。若葉は食用にもなり、イワタバコの別名があります。葉がタバコに似るので、この名がありますが、他人のそれと似てはなりません。



**トチノキ**  
*Aesculus turbinata*

全国に広く分布しますが、冷涼な環境を好むので、東北地方など東日本に多く、奈良県では南部の渓谷沿いにサワグルミ、シオジなどととも生育しています。葉は小葉5-7枚位を掌状に付けて、大きいものだと50cmを超える特徴的なものです。川上村ではこの実をトチ餅の材料として使います。



植物相	草本・木本	約390種
	シダ植物	約130種
	コケ植物	約300種

**コウヤコケシノブ**  
*Hymenophyllum barbatum*

植物体は長さ約4-8cmのシダ植物で、樹木や岩に着生します。薄い葉身は一層の細胞で構成されているので透かして見ると、葉脈がきれいに見えます。源流の森には岩場などで大きな群落を構成して、美しい景観が見られます。名前は高山にちなみます。



**ヒロハシノブイトゴケ**  
*Trachycladiella aurea*

渓谷沿いの樹木、樹枝や岩壁から垂れ下がるように生育し、長さ30cm以上にもなります。環境省レッドリストの準絶滅危惧種で、溪流を含む森林環境の悪化や大気汚染などにより容易に減少します。アジアの熱帯、亜熱帯に分布し、日本が分布の北限になります。



# 森の動物

多様な植物が生育する「吉野川源流－水源地の森」には、ツキノワグマ(紀伊半島個体群)、ニホンカモシカなどの希少なほ乳類をはじめ多様な動物が生息しています。特に、源流部の溪流環境に適応した生態を持つナガレヒキガエル、オオダイガハラサンショウウオなどの両生類が生息していることは、この森の陸水環境が長年にわたり安定していることを示しています。

動物相	ほ乳類	19種	両生類	10種
	鳥類	56種	魚類	8種
	は虫類	10種	昆虫	649種

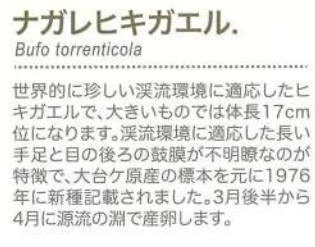
**ナガレヒキガエル**  
*Bufo torrenticola*

世界的に珍しい溪流環境に適応したヒキガエルで、大きいものでは体長17cm位になります。溪流環境に適応した長い手足と目の後ろの鼓膜が不明瞭なのが特徴で、大台ヶ原産の標本を元に1976年に新種記載されました。3月後半から4月に源流の淵で産卵します。



**ヤマガラ**  
*Parus varius*

全長13-15センチメートル、成鳥は背と腹が鮮やかな赤茶色なのが特徴です。雑食で、昆虫、クモ、果実などを食べます。「チュピーチュッピー」と高い声で鳴きます。川上村の鳥に指定されています。



**スギタニルリシジミ**  
*Celastrina sugitanii*

体長(前翅長)12-16mmの小さなシジミチョウで、早春に見られます。幼虫はトチノキの花・つぼみ・若い実のみを食べて成長し、さなぎで越冬します。昆虫はこのようにある特定の植物のみを食べる種が少なくないため、多様な種を守るためには森全体を保全する必要があります。



**ニホンカモシカ**  
*Capricornis crispus*

日本固有種で、国の特別天然記念物に指定されている草食獣。頭胴長は約70-85cm、体重30-45kgになります。川上村では「ニク」の地方名で呼ばれます。見通しのよい岩場などでよく休むように岩場に適応していて、川上村では、本種しか立てないような岩場のことを「カモシカ立ち」と呼びます。



**アマゴ**  
*Oncorhynchus masou ishikawae*

低水温、急流に適応した吉野川源流を代表する魚で、釣魚としても人気の高い魚です。サケの仲間で、サツキマスの河川残留型(陸封型)個体のことをアマゴと呼びます。川上村では、地域によって呼び名が「アメゴ」「アメノウオ」「ヒラコ」など多様で、文化的にも身近な魚です。奈良県では2012年にキンギョ・アユと合わせて「県のさかな」に指定されました。



**オオダイガハラサンショウウオ**  
*Hynobius boulengeri*

日本産サンショウウオ科の中では最大種で、大きいものでは体長20cm位になります。春に溪流沿いの安定した岩の下に産卵し、繁殖には安定した溪流環境が必要です。奈良県、三重県の天然記念物に指定されています。



写真:和田孝史さん撮影



「吉野川源流—水源地の森」は  
ユネスコエコパークの緩衝地域 (buffer zone) です



# 川上宣言

平成8年、川上村は「樹と水と人の共生」を目指して、  
全国に向けて「川上宣言」を発信し、「水源地の村づくり」に取り組んできました。

- 私たち川上は、かけがえのない水がつけられる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 私たち川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 私たち川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値にふれ合ってもらえるような仕組みづくりに励みます。
- 私たち川上は、これから育つ子どもたちが、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくります。
- 私たち川上は、川上における自然とのつきあいが、地球環境に対する人類の働きかけの、すばらしい見本になるよう努めます。

## 奈良県川上村

〒639-3594 奈良県吉野郡川上村大字迫1335-7  
TEL : 0746-52-0111 / FAX : 0746-52-0345  
<http://www.vill.kawakami.nara.jp/>  
E-mail/suigenchi@vill.nara-kawakami.lg.jp



## 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平  
TEL : 0746-52-0888 / FAX : 0746-52-0388  
<http://www.genryuu.or.jp/>  
E-mail/morimizu@genryuu.or.jp